

R2年9月4日(金)

テーマ：看護現場をいきいきさせるファシリテーション

講師：浦山絵里先生　　ひとづくり工房 esuco  
代表

場所：看護研修センター

参加者：21名

令和2年度は新型コロナウイルスが原因で、講師が和歌山に来ていただくことができない。受講生が研修会場に来ることができないなどのために、対面講義ができないことが起きている。

その代替研修として、Web研修を取り入れた。

講師がWebにより講義してくれた初めてのWeb研修だった。

看護協会も初めてのことで、講師からいろいろと教えていただきながら進めていった。



スクリーンにはパワーポイントと講師の顔が映し出されている。

講師への意思表示は、こんな感じ  
大きく片手を挙げて「グー・チョ  
キ・パー」



各グループに1台PCを設置して、講師にファシリテーションの状況を見てもらい、終了後にコメントをもらった。

R2年9月9日(水)

テーマ：がん終末期における苦痛の緩和

講師：茶木美智子先生 中江病院  
がん性疼痛看護認定看護師

場所：看護研修センター

参加者：17名

講義が中心の研修でした。全人的苦痛の緩和・疼痛コントロール・意思決定支援および家族のケアまで多くのことを学びました。

日頃の看護ケアを振り返るとともに、さらなる知識を深めることでより新鮮な気持ちになりました。問題解決に向けての糸口を見出せたり、本日の学びを今後に充分活用できる内容でした。

「自分自身死ぬ」  
「大切な家族が死ぬ」  
かも知れないということを  
真剣に  
考えたことがありますか？  
という最初のフレーズにドキッとしましたが  
緩和ケアの奥深さを再認識しました。



より添っている猫に癒  
されます。とても素敵な  
言葉ですね。

R2年9月11日(金)

テーマ：新人ナースのためのフィジカルアセスメント  
～事例から学ぶフィジカルアセスメント～

講師：早田修平先生 和歌山労災病院  
救急看護認定看護師」

場所：看護研修センター

参加者：42名

新人研修で、比較的人数が多かった。

午前はスクール形式、午後からグループワークを実施。

まずは、急変に対応したことがありますか？との問いかけから始まる。

講師は実際に呼吸器をつけてみたことがあるそうです。その時に患者さんのしんどさがわかったとのこと。



講義中、いろいろなペンを使って必死に書き留めてくれていた。

グループワーク中  
事例検討を実施。講師が1Gずつ、丁寧に指導して回った。



グループワークの後には、発表！  
講師が横で一人一人を温かく見守る。  
時には、質問しながら...

R2年9月15・16日(火・水)

テーマ：JNA収録DVD研修 認知症高齢者の看護実践に必要な知識

ファシリテーター：寺澤幸美先生 北出病院  
認知症看護認定看護師

場所：看護研修センター

参加者：77名

診療報酬に関わる研修のため、多くの方が受講してくれた。  
昨年までは、オンデマンドだったが、今年度はDVDだった。



講義中の様子  
講義と講師からのテーマに沿って前後の人と話し合う。

2日間の研修で、毎日終わりに受講生からの質問に答えてくれた。



研修会では、質問用紙を事前に配布。  
個々に質問を書いて、講師にその日の研修まとめの時間に回答してもらった。

R2年9月26日(土)

テーマ：周手術期に必要な継続看護

講師：谷口勇氣先生 和歌山県立医科大学附属病院  
手術室看護認定看護師

場所：看護研修センター

参加者：35名

手術室勤務の方と病棟勤務の方が受講してくれた。  
講師は受講生がワークをしている間、ラウンドしてひとつひとつアドバイスしてくれた。



個人ワークの様子  
講師がラウンドしながらアドバイスをしてくれる。

次にグループワーク  
グループには手術室勤務の人が混じるように席替えをする。  
この時も講師がラウンドしながらアドバイスをしてくれた。皆が講師に顔を向けてうなずいていた。



グループワークの後は発表  
自分のグループが当たるのかドキドキ？

